

令和3年度第2回平塚市子ども・子育て会議
子育て支援事業推進部会 会議録

日時：令和4年3月22日（火）午後1時30分～午後2時45分

場所：平塚市教育会館 3階 大会議室

1 議長・副議長の選出

部会委員の互選により議長・副議長が選出された。議長には学識経験者の落合委員、副議長には平塚市民生委員児童委員協議会の黒田委員が選出された。

2 議題

(1) 令和3年度ひらつか子育て応援プランの取組状況評価

ア 基本事業（市の取組）

資料「令和3年度取組状況評価（暫定版）～基本事業（市の取組）～」に基づき、事務局から説明した。「ひらつか子育て応援プラン（第2期平塚市子ども・子育て支援事業計画）」は、6つの基本目標に基づき192の事業を実施している。

令和3年度は、令和2年度と同様に、評価するにあたり新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けているが、各課では感染対策を講じながら工夫して事業を実施している。そのため、A評価「成果があがった」、B評価「おおむね成果があがった」と評価した事業は合計して177事業となり、昨年度の暫定版と比べると7事業増加となった。評価をC「十分に成果があがらなかった」としている事業は10事業あるが、これらは新型コロナウイルス感染症の影響により、縮小、開催を中止した事業となっている。

続いて、各事業を基本目標に沿って、部会委員から事前に提出された意見を中心に説明を行った。

【質疑応答は次のとおり】

基本事業（市の取組）全体について

委員：A、B、Cという評価方法について、先ほどの意見紹介にもあった「令和3年度取組状況評価～基本事業（市の取組）～」の2（1）13幼保一元化のモデルケース事業のように、事業によってはどうしてAの評価をしたのか、その理由が分かりにくいものがある。また、可能であれば将来的には、他市との比較や客観的に比べられるものが良いのではないか。

事務局：事業の評価については、分かりやすいものが理想だと考えるが、数値で表すことが難しい事業もある。評価をどのような形で分かりやすく示すことができるか、今後の課題としたい。

議長：評価に関しては、数値による評価となると数値だけを求めてしまい、評価が

しやすい課題しかでてこない可能性がある」と、以前の子ども・子育て会議の中で委員の方から伺ったこともあり、現在の評価方法とした経緯がある。

今、お話のあった幼保一元化のモデルケース事業については、検討の中で挙げた課題を「令和3年度取組状況評価～基本事業（市の取組）～」の当該事業の取組内容として記載していただけるとより分かりやすいと考えられる。

イ 教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策

資料「令和3年度取組状況評価（暫定版）～教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策～」に基づき、事務局から各事業における実績値（評価値）について説明を行った。

【質疑応答なし】

出席者：落合議長、黒田副議長、金田委員、金子委員、鷺尾委員、山田委員、
三尾委員、中野委員、古尾谷委員、三宅委員

傍聴者：なし

事務局：健康・こども部長、保育課長、こども家庭課長、健康課長、
青少年課長、学務課長、保育課5人、教育総務課1人、
教育指導課1人、社会教育課1人

以 上